

審査員賞

(神奈川県鎌倉市)

岩田 薫

「三本足の龍馬君へ」

拝啓。天国の龍馬君へ。

あなたが亡くなってから、もう四年がたちました。天国では、きっと仲間と四本足で楽しく飛びはねて遊んでいることでしょう。

あなたが軽井沢の家へきた日のことを、昨日のように覚えています。生まれてまだ四か月目のあなたは、母親から離れた淋しさにピーピー泣いて、私も妻も二人の子供たちも、なぐさめるのに大変でした。でも、すぐに別荘地の環境になじんで、毎日野山を駆けまわるようになりました。他のラブドール犬と比べても体格が大きあなたは、野ウサギやカモシカを追いかけるのが大好きで、そのたびに私たち親子はひきまわされ、毎日運動会をしているような気になったものです。

そんなあなたが、前足の一本を切断する手術を受けることになったのは、生後十一年目のことでした。肉球にできたガンが、他に転移しないために、泣く泣く右足を切ることにしたのです。

大型犬が三本足で歩けるのか、最初は心配でした。しかし、あなたは、お隣りの別荘の家族が連れてきたメス犬のあとを追い、必死に三本足で動く努力を行ない、ついに好きな野山を走り回れるようになったのです。二人の子供たちが東京へ出たあと、妻と私とで、あなたをドッグランへ連れていくのが日課になりました。その妻も仕事のため私と別居することになり、二人だけの生活が始まりました。家族のいなくなった家で、夜あなたと寄りそって寝る日々が続きましたね。私の母が認知症になり、その面倒をみるため、あなたを連れて鎌倉へ転居したのは五年前でした。鎌倉の地でも、あなたは三本足で散歩を一生懸命して、子供たちに「盲導犬サーブだ」とはやし立てられましたね。でも、最後はガンが全身に転移して寝たきりになってしまいました。あなたの最期をみとつたのは、私一人だけでした。「ウーン」とうなって、あなたは私に別れを告げ天へ召されていきました。

今、私はあなたの骨壺を居間に置き、一人淋しく暮らしています。もう一度、ひと目でいいからあなたと会いたい。それが、私の唯一の願いです。